

第3回新おおた教育ビジョン策定懇談会 議事要旨

1 日 時 令和5年10月13日（金）午後2時から午後4時まで

2 場 所 大田区民ホール・アプリコ地下1階 小ホール

3 内 容

(1) (仮称) おおた教育ビジョン素案(案)についての意見聴取

4 小黒教育長挨拶

この懇談会は今回で3回目の最終回を迎える。これまで2回の懇談会にわたり皆様からいただいた意見を真摯に受け止め、ビジョンの内容について検討を重ねてきた。そして、今回は(仮称)おおた教育ビジョン素案(案)を作成したので、ご意見をいただきたい。

体系については、区民に分かりやすいものとなるよう、見直しを重ねてきた。また、成果指標や、取り組みについては、今回初めてお示しをする。具体的な内容を含め、ご意見をいただきたい。

5 委員からの主な意見

<計画全体について>

- ・今回の素案は、現在の教育ビジョンをさらにどう発展させるかということが理念の短い文章に表れている。具体的には、未来を「創る力」だったものが「創り出す積極性」を意識していること、「笑顔とあたたかさあふれる未来」と未来のイメージを具体的に文章化していることである。(堀内委員)
- ・こども家庭庁、こども基本法の動きが触れられていないので、どこかに言葉があるといい。(有村委員)
- ・2ページ、計画の位置付けで国・都から大田区への矢印があるが、これはいらぬのではないかと。また、大田区の教育ビジョンがメインだから、大田区、国・都、教育ビジョンの3者の位置関係はこれでいいのか。さらに、双方向の矢印と一方通行の矢印の使い分けはこれでいいのか、もう1回検討していただきたい。(有村委員)
- ・素案では、従来の教育が引き継がれている部分もあれば、全く新しい教育が入ってきている部分もある。新しい教育の部分については、区民の多くの方々に理解していただけるよう、区としても働きかけをしていただきたい。(松橋委員)
- ・4ページ、SDGsと本計画の関係について、施策体系における8つの個別目標とSDGsの17のゴールとの対応関係を具体的に示してはどうか。(星山委員)
- ・計画期間は5年間だが、社会がこれだけ目まぐるしく変わっているため、計画期間の途中で見直しの議論が必要になることもあり得ると思う。(和田委員)

<理念、基本方針について>

- ・5ページ、理念の3つ目の段落の主語があいまいだと感じるため、整理が必要である。(溝口委員)
- ・5ページ、理念の3つ目の段落の後ろから2行目、「支援が不可欠」の前に「子どもたちの立場に立った」を入れてほしい。(河合委員)
- ・5ページ、理念について、「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」というメッセージ

ジを端的にイメージできるようなイラストや挿絵、4コマ漫画などで表現するのはどうか。(星山委員)

<体系図について>

- ・区民、教師、保護者が自分たちにできることは何かを考えてもらうには、今取り組まなければならない施策の意味を吟味し、個別目標、基本方針との繋がりを逆に読み取る方向性も大切にしたい。(堀内委員)
- ・個別目標の3と7の言葉が長いので、例えば個別目標3は「個性と能力を発揮する基礎力を育成します」、個別目標7は「地域コミュニティの核としての学校をつくります」としてはどうか。(有村委員)
- ・体系のイメージ図について、上部の黄色の丸の部分に何か象徴的な言葉が入った方がいいのではないかな。(有村委員)
- ・体系のイメージ図の説明文で、「担う力」、「担い手」という言葉があるが、担うという言葉は子どもに負担を強いる表現で、もっと子どものよさを生かした、「自分のことを大事にしていい」ということと「担う力」の両面がかかった言葉の方がいい。(有村委員)
- ・体系のイメージ図は階層的なイメージ図になっているが、本来は、学校は学習、家庭でしつけ、地域や社会で遊びの面で子どもを見守っていくというのが、教育の形だと思っている。(伊藤委員)

<成果指標について>

- ・ほとんどが全国平均以上とか東京都平均以上だが、もう少し具体的なものにできるといい。(加藤委員)
- ・成果指標のほとんどが全国平均より低いので、そこは検証して改善をしていくことで、目標達成、全国平均より上になるように考えていただきたい。(富田委員)

<取組内容について>

- ・16ページ、区独自教科「おおたの未来づくり」について、ものづくりと地域の創生というキーワードを軸に大田区らしい教育課程を望む。その際には、ウェルビーイング、グローバリゼーション、キャリア教育、大田の強みである地域力、羽田を含めた国際都市のポテンシャルなどを組み合わせて、夢のある授業をしてほしい。(星山委員)
- ・英語力について、羽田空港があるという環境は非常に重要である。外国人と英語で話す子どもたちを大田区民全体に広げていくぐらいの気持ちでやってほしい。各学校、特に中学校では、英語以外話さないで過ごす時間を作ることを、地域の英語ができる人にも協力いただきながら進めてほしい。(堀内委員)
- ・読書学習司書の勤務時間を学校の生活時間に合わせたり、保護者などの協力を呼びかけることで、子どもが学校図書館を使える時間を増やし、子どもの居場所としての役割を果たすようにしてほしい。(堀内委員)
- ・27ページ、読書活動に関して、中学生の思春期の時期の読書は大事であるから、図書室の活用、中学校の読書活動はもう少し力を入れてほしい。(河合委員)
- ・地域の図書館と同様に、学校の図書室の充実も子どもたちの豊かな学びの提供につながる。調べ学習

は、各自のタブレット端末でも可能だが、辞書を引く習慣や身近な学校での図書室を有効活用することは、子どもたちが安心感をもつことができる。地域の図書館と連携して、子どもたちの読書時間が増やせると良い。(鈴木委員)

- ・27 ページ、文化芸術体験活動の1行目、「様々な文化芸術」の前に「美術館見学など」を入れてほしい。(河合委員)
- ・コロナ禍の影響で減少した体験教育としての「音楽鑑賞」、「演劇鑑賞」、また「美術鑑賞」や地域の中での歴史や文化資源の見学に足を運んだり、「郷土博物館」への見学に行く等の心を豊かに育てる機会を増やしてほしい。(鈴木委員)
- ・公立学校における学力の向上では、全ての教科で指導する見方、考え方から筋道を立てて指導内容・方法を工夫し、基礎、基本からじっくり時間をかけることで学力の確実な定着を図る必要がある。(堀内委員)
- ・28 ページ、②学習習熟度の把握、「大田区学習効果測定」は、得点だけではなく、グラフでよく分かっているところ、理解が足りないところが目瞭然になっている。ぜひもっと活用して、どうやったら一人ひとりの基礎学力を身に付けられるか、検討してほしい。(河合委員)
- ・29 ページ、放課後子ども教室での自主学習支援も有効な取組と思うが、人権教育も取り入れるとよい。(鈴木委員)
- ・31 ページ、「早寝・早起き・朝ごはん月間」など、保護者が協力できる場所については、例えば「家庭と連携して」といった文言を入れると、先生方も頼みやすいと思うし、保護者としても責任感をもって取り組める。(溝口委員)
- ・私立幼稚園の考え方という、どんなにいい目標があっても、行き着くところは教員育成に尽きると思う。また、私立幼稚園では幼児人口が減少している中、どのように幼児教育の充実の一環になれるかというところでは、何か政策を組み込んでもらえると、地域の財産として幼児をもつ家庭に力を発揮できると思う。(野村委員)
- ・33 ページ、義務教育学校の設置検討について、小中一貫で教員の効果的な配置が進み、英語教育の充実や多様な集団形成、ICTの効果的な活用など、たくさんメリットが期待できる。(星山委員)
- ・36 ページ、教師の意欲向上で教員表彰だけなのは短絡的にみえる。もう一つ具体的な事業を挙げて、こういうことをやっているから教師の意欲向上になっているという方がいい。(有村委員)
- ・36 ページ、教師の意欲向上については、部活動の地域移行、様々な人的支援など働き方改革の内容を1つ、2つ加えるとよい。そこから教師の時間が生まれ、自分の目の前にいる子どもたちに向き合う時間が作れ、意欲向上につながるという指標になる。(阿部委員)
- ・37 ページ、「地域とともにある学校づくり」は、個別目標7のコミュニティ・スクールのところに統合した方がわかりやすい。(溝口委員)
- ・37 ページ、「学校評価に基づくPDCAサイクルの実施」の説明に地域教育連絡協議会のことを書くと良い。(溝口委員)
- ・教師の働き方改革について、教員のウェルビーイングなくして、学校、子どものウェルビーイングもないと考えており、教師のウェルビーイングを高める取組をという項目を入れてほしい。(星山委員)
- ・38 ページ、部活動の地域移行について、基本的な考え方は指導にコストをかけてやるのがこれからのスタンダードだということだが、できればなるべくコストをかけず、指導者だけが変わるような形でやっていけるのがいいと思う。(伊藤委員)
- ・44 ページ、いじめ防止の考え方が国の方でも変わってきており、教育論ではなく法的な措置を重視す

るという方向に変わってきている。特にこの1年くらいで変わってきたので、それを踏まえた言い方にするという。 (有村委員)

- ・いじめと不登校が全国的に増えている状況が大田区の実態にも当てはまるならば、「個別目標5(2) いじめの早期発見・早期対応と不登校対策の充実」について、文言を補って、そのあとの取組に反映させることを検討してほしい。また、「個別目標3(1) 豊かな心の育成」について現在の子どもたちの間に深刻な状況があり、その象徴としていじめと不登校をとらえる、という視点を明確にするとよい。(尾木座長)
- ・47 ページ、タブレット端末を学習のみではなく、チャットによる相談機能もこれからは活用されるとよい。(鈴木委員)
- ・53 ページ、防犯教育について、セーフティ教室・防犯教室を年間各1回以上とあるが、3学期あるから学期ごとにやればいいのか。また、防災教育について、避難訓練を行う際には、地域の消防団、市民消火隊等と連携することで、より実践的にできる。(富田委員)
- ・個別目標7に地域という言葉がたくさん出てくるが、それぞれ何を指すのか、PTAなのか保護者なのか、コミュニティ・スクールなのか地域学校協働本部等なのか等、使い分けをしてほしい。(溝口委員)
- ・55 ページ、(1) 現状と課題の2段落目、「より良い環境づくりに取り組み」の環境はなんの環境なのかをもう少し丁寧に説明してほしい。(溝口委員)
- ・地域の特色、地域の伝統という言葉があるが、例示など書いてあると、大田の地域力とコミュニティ・スクールの取組とがうまく連携できると感じた。(溝口委員)
- ・55 ページ、共働き家庭の増加とあるが、共働き家庭の他にひとり親家庭、あるいは外国人家庭というのも加えてはどうか。(星山委員)
- ・56 ページ、コミュニティ・スクールについては、様々な価値観をもつ人が集まって学校の状況を見つめながら意見を出し合い、よりよい方向を考えるという形を法律的にもバックアップされている組織であることから、段階的にでも各学校で取り組んでもらいたい。(堀内委員)
- ・56 ページ、コミュニティ・スクールの委員に企業が入ると、企業との交流が良くなると思う。また、小学校と中学校の地域学校協働本部、コミュニティ・スクールが連携できるとより地域の活性化になると思う。(河野委員)
- ・58 ページ、PTAなど地域団体、PTAや保護者の会という言葉があるが、コミュニティ・スクール移行までか、移行してからも通用するのかも含め、言葉を整理してほしい。(溝口委員)
- ・58 ページ、家庭・地域教育力向上支援事業を使って勉強会などを行っているが、家庭の力が無くなってきていると思うところがあり、教育ビジョンの運用の中でしっかりと家庭への支援、情報提供が届くようになると良い。(小林委員)
- ・大田区は地域ごとの特性があるため、大田区としての教育ビジョンをどこまでそれぞれの地域に落とし込んでいけるかが大事である。(小林委員)

<その他>

- ・カタカナやアルファベットの専門用語が多く見受けられるため、理解しやすいようにそれらに注を付けてほしい。(星山委員)
- ・現在、人口知能の分野で極めて速いスピードで変革が起きている。近い将来、今以上の情報過多あるいは真偽不明の情報に接する機会が多くなると考えられる。正しい基礎的な情報を十分にもっていれ

ば、ある程度自分の考えで判断していくことができるため、これからの学校教育は基礎知識を教えることがますます重要になると思う。(藤井委員)

- ・人々の間においても、色々な考え方をもつ人が出てくるため、人の考えを理解する力や、寛容な心が大切になってくる。テーマに沿って自分の意見をきちんと言えること、人の意見に真摯に耳を傾け、理解してあげる力をはぐくむ必要がある。(藤井委員)

6 今井教育総務部長挨拶

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

これまでの懇談会で、熱心にたくさんの意見をいただき、我々としても議論をしておして修正し、より良いものが作れたと思っている。本日さらに貴重な意見をいただいたので、それを基にさらに磨き上げ、パブリックコメントにかける素案を作り上げ、区民から意見をいただいきたい。懇談会はこれで最後になるが、3月の完成までご指導いただきたいので、よろしく願う。3回にわたり貴重な意見をいただき、ご尽力いただいたことに改めて感謝申し上げる。